

第2次佐倉市産業振興ビジョン(改訂版)概要

ビジョンで目指すまちの姿 『人がうまれ 職がうまれ にぎわいがうまれるまち 佐倉』 計画期間：令和2年度～13年度

- ・産業振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るために策定。「商工業等振興」「農業振興」からなる。（観光振興は別冊「観光グランドデザイン」）
- ・令和7年度に中間年を迎えることから、中間見直しを実施

前期の進捗評価	<div>・第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付けられた商工業分野8つ、農業分野3つのKPIにより進捗評価</div> <div>・ビジョン策定直後に発生したコロナ禍の影響で産業活動が停滞したことから、目標値を達成できたのは商工業2つ、農業2つに留まった。</div> <div>・見直しの中で、指標の達成状況や市内産業を取り巻く現況に基づいた適切な指標設定を行う必要がある。</div>
---------	---

■施策体系及び主な取組

現状・課題		基本方針	主な取組事項(案) ※実施可否等を今後検討するものを含む	
商工業等	(1)物価高騰と深刻な人手不足	(1)多様な人材の就労促進	① 多様な人材と市内事業者とのマッチング	情報交換会、会社説明会等の開催、相談や学習機会の提供、市内事業者の周知啓発、キャリア教育やインターンシップの実施
	・市内事業所の経営課題として資材費や人件費高騰が著しく増加		② 事業者の人手不足解消に向けた支援	多様な働き方や職場環境改善の啓発、企業合同研修やリスクリングの支援、外国人材活用支援
	・生産年齢人口減少		③ 働きたいを叶える女性や高齢者、障害者の就労支援	個々の属性に応じた情報提供や啓発事業、障害者雇用促進奨励金
	(2)－①「稼ぐ力」の二極化	(2)企業の競争力強化	① 設備投資や先端技術の活用による生産性向上等の推進	再投資助成金の交付、先端設備導入計画に基づく支援、国・県補助（「もの補助」等）の活用、知的財産権の活用支援、DX等の情報提供
	・社会情勢の変化等への対応可否等により営業利益が二極化		② 新商品開発や販路拡大等に対する支援	商工会議所と連携した新商品開発支援、販路拡大に向けた小規模企業持続化補助金等の活用や「九都県市合同商談会」への参加促進
	・収益増加の一方で、コスト上昇が懸案事項		③ 事業者間連携・経営革新に対する支援	市内経済団体の活動支援と加入促進、経営革新計画策定支援、健康経営やGX等の取組支援
	(2)－②先端技術導入への取組の遅れ		④ 関係機関との連携による支援	各種相談機関の活用促進、経営発達支援計画に基づく商工会議所との連携事業の実施
	・働き方改革や消費行動の変化等、様々な課題への対応が必要	(3)新たな事業者の増加	① 創業者の増加・育成	起業塾、創業相談、空き店舗補助やコラボサクラ活用による活動支援、事業者マッチング
	(3)事業者数の減少		② 新たな産業用地等の確保	佐倉IC周辺や工業団地周辺等の産業用地創出の取組支援、賃貸型企業誘致助成
	・人口減少に伴う市内事業所数の減少が危惧される		③ 誘致企業に対する支援	空港拡張や新産業のニーズを踏まえた企業誘致の促進、庁内連携による進出企業の支援、企業誘致助成制度の適時の見直しと周知の充実
	・成田空港の第二の開港を控え、企業誘致の受皿となる用地不足が課題	(4)市内事業者が佐倉で活躍し続ける環境づくり	① 各種支援機関との連携による市内事業者の経営継続支援	事業者意見交換、経営相談活用促進、制度融資・利子補給、事業継続力強化計画策定支援
	・市内企業の更新時期の転出懸念		② 事業承継・M&A 支援	事業承継出張相談会等の活用、セミナー開催
	・更なる創業支援の必要性の高まり		③ 工業団地等の都市基盤の整備・維持・補修	工団連との意見交換によるニーズ把握、関係機関・警察との連携強化
	・後継者難に対し、事業承継の早期取組が必要		④ 商店会等が行う地域活性化の取組支援	街中にぎわい推進事業の活用、街路灯維持管理支援、空き店舗出店促進、国・県支援制度周知
農業	(1)農業者の減少や高齢化	(1)農業の担い手の確保と強化	① 農業経営改善支援	農業経営改善計画に基づく取組支援（経営規模拡大、生産・経営の合理化等）
	・20年間で従事者60%減、65歳以上7割		② 新規就農支援	農地や研修農家の紹介、資材購入等の支援、「佐倉市新規就農者の会」の活動支援
	(2)農業の収益性低下	(2)競争力のある農産物の生産	① 差別化した農産物の生産推進	新たな農産物や新品種導入に向けた試験栽培や、ニーズ調査のための試作品製作等の支援
	・コメ消費減少、販売価格低迷		② 農産物の認知度や付加価値の向上	市内農産物プロモーション、6次産業化、食育推進、農業体験、有機農業等の推進
	・経費高騰で収益確保困難化	(3)生産性が高い農業生産基盤の整備	① 担い手への農地の集約化	地域の話し合い、担い手の新たな農地借受支援
	・農産物の付加価値向上が必要		② 農地の整備	スマート農業を実現する農業機械等の導入が可能な農地整備の支援
	(3)生産基盤の整備の遅れ		③ 農業・農村の多面的機能の維持・発揮	農地の多面的機能を維持するための地域の共同活動の支援
	・費用が多額で整備進まず	(4)災害などに強い農業の推進	① 野生鳥獣からの農作物被害防止	地域共同活動、森林保全等を通じ「捕獲」「防護柵の設置」「棲み家を無くす」等の取組支援
	・農地借受による規模拡大進まず		② 経営・災害リスク等への備え	災害対策に関する資材経費支援、農産物の収入保険への加入促進、田んぼダム取組支援
	・高収益性のハウスは災害リスク大			
	・地域共同活動の継続が困難に			
	(4)経営、災害等のリスク増加			
	・収益性の確保困難化			
	・台風や豪雨等によるリスク増加			
	・鳥獣被害等によるリスク増加			

■ビジョンの実現に向けて

- 各主体の役割分担と連携…市、産業経済団体（商工会議所等）、事業者、市民が相互連携し、一体的かつ相乗的に施策を推進
- 国・県・市の施策の周知…ビジョンの内容を市民にもわかりやすく取りまとめホームページ等で周知するとともに、具体的な制度内容を事業者・農業者に周知する機会を設け、利用を促進
- ビジョンの進捗管理、見直し…「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を引き継ぎ、第5次佐倉市総合計画中期基本計画の重点施策として位置づけられた「佐倉市デジタル田園都市構想総合戦略」のKPI及び基本計画等の指標による進捗状況の把握、産業振興推進会議に報告